

## 洗筆

終戦直後、鶴

見俊輔さんのも

とを、ハーバー

ド時代の同級生

が訪ねてきた。

占領軍の軍医になっていた。「どういふふうにつアシズムが起こるかについて話してくれ」▼時代は財閥解体、農地解放の占領改革で日本中が米国流民主主義に沸いていたころだ。この同級生は、「これからアメリカは、ファシストの国になる。だから日本でどういふことが起きたか聞きたい」と言っただけで鶴見さんを驚かす。「すごい予言だった。イラク戦争のアメリカを見てみると、今になってその予言が実現した感がある」▼日本の戦中戦後を思想家、運動家として生き抜いた鶴見さんも八十歳を超えた。その鶴見さんが語り残したものを聞いておこうと、戦

後世代の社会学者・上野

千鶴子さんと『民主』

と『愛国』の著者・小

熊英二さんが時に厳しく

切り込み、鶴見さんも誠

実に答える出色のインタ

ビューとなった。『戦争

が遺したもの―鶴見俊輔

に戦後世代が聞く』（新

曜社）▼小田実・ベ平連

代表について「浜辺を歩

いていたら、ピンが転が

っていた。好奇心でピン

のふたを空けたら、もく

もくと煙が上がって、巨

人が出てきた」とこの稀

代の運動家との出会いを

楽しげに振り返る▼東京

都教委が、卒業式で国歌

斉唱をしなかった教職員

百七十六人を三十一日付

で処分した。一九九九年

に成立した国旗国歌法審

議では「国として強制し

たり義務化することはな

い」と野中広務官房長官

（当時）は確約していた

▼不敬罪という死文がよ

みがえったような世相に

暗然とする。歴史を学ぶ

ことの大切さを思う。